

5月 山行報告



■兵庫労山主催 第50回記念大会 六甲全山縦走

● 山 行 日：3月13日(日)

◆◆パーティの力で完走できた西六甲縦走コース

瀧原

第50回六甲全山縦走大会に参加できたのは幸運であった。昨年、けがのため見合わせていたからだ。今年は東北の方たちを招いての記念大会である。

7時間余り歩くので普段のハイキングとは違って、準備にも気が引き締まる。できるだけリュックは軽く、塩分や水分補給にポカリスエット、レーションには梅干入りのおにぎりに卵入りパン、甘い物などを前夜に用意した。足の爪を切る。長時間歩くといつも小指が痛くなるので、バンドエイドを貼り、靴は締めすぎないように紐を結んだ。(これは正解だった。)

当日、お天気良好。受付後、記念大会の記念品として手ぬぐいをもらってスタートした。

前半は神戸の海の眺めも気持ちよく、順調に歩いて行った。汗ばんだ頬に風が心地良い。

今年は若い人が多いようで、彼らは軽快に追い抜いて行く。同世代とは抜きつ抜かれつしながら、お互いに頑張ろうと心の中でエールを送った。

いつものことだが、梅尾山の400段の階段から高取山、長い街歩きを過ぎて菊水山下チェックポイント辺りに来ると、登りがしんどくなってきた。疲れがたまった頃に菊水山への登りがある。一足ひとあし、前へ出しながらやっと頂上に着く。今年は頂上でバナナをいただき、しばしの休憩をして元気が出てきた。鍋蓋山頂に着いた頃には疲労困憊していたが、「ようやくゴールが見えてきた、あともう少しで大竜寺。」と思うと、最後の力が湧いてくる。「みんなと一緒にやから歩ける。こんなしんどいのは一人やったら歩けない。」の声に大いに共感！その通りだ。パーティの仲間がいるから、この大会に参加している多くの仲間がいるから必死で頑張れるのだと思う。

大竜寺への下り坂をラストスパート。15:10ゴール！完走証を手にすることができた。ここでもらったコーヒー牛乳はほんとに美味しかった。残念ながら足の不調のため一人、鶴越駅でリタイアされたが、パーティ4人の力でここまで来られたと思う。リーダーはじめパーティ



の皆さま、お世話になりありがとうございました。

事前の準備や当日の運営に、私たちの会や労山の会員の皆さまがお世話してくださったことに深く感謝したい。これからも多くの山を愛する人たちのために六甲全山縦走大会が続いていくことを願っている。

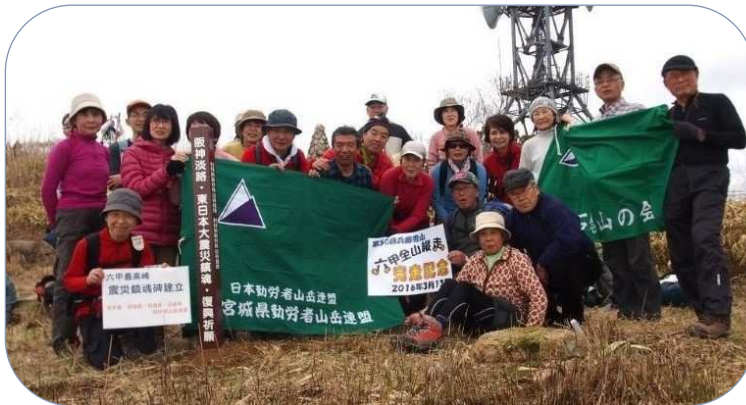
● 参 加 者 : L 上田 SL 澤田(律) 瀧原 矢根

● 行 動 記 録 : 須磨浦公園 7:40～旗振山(8:05 着)8:10 発～高倉団地 8:33～横尾山(9:12 着)9:17 発～妙法寺(10:05 着)10:15 発～高取山 11:00～鶴越駅(12:05 着)12:10 発～菊水山下チェックポイント(12:30 着)12:35 発～菊水山(13:25 着)13:35 発～大王吊橋 14:00～鍋蓋山(14:35 着)14:45 発～大竜寺ゴール(15:10 着)15:25 発～桜茶屋(15:35 着)15:45 発～新神戸 16:40

◆◆「東六甲縦走コース」

須増

今年の集合時間：新神戸駅にAM7：15分であった。前夜までの準備不足から到着が



5分ほど遅れてしまった。既に受け場所付近では、大勢の参加者で溢れていた。今年は、(第50回記念大会、及び宮城県勤労者山岳連盟のメンバーと一緒に歩く)という特別な縦走である。私の願いは、宮城の方を含めて全員でゴールしたいということであった。

1) 参加者

一緒に歩くパーティの参加者＝総勢で15名(内訳は、下記の通り)

- ① 高御位山遊会の参加者：計5名(砂川会長ほか4名)
- ② 兵庫県連スタッフ：1名＝小野田五月さん(須磨労山)
- ③ 兵庫県／神戸市から宮城県へ復興支援に行かれておられる方：1名＝川本様
- ④ 宮城県勤労者山岳連盟：計8名(朋友会、どっぼ山の会、石巻山の会)

(注)川本様は、ガーデンテラスにて下山、別行動をされた。

2) 目的

- ① 東六甲縦走コースを東北の仲間と一緒に歩いて完走すること
- ② 阪神・東日本大震災鎮魂・復興祈願の標柱建立(六甲山頂)

3) コース

新神戸駅～市ヶ原～摩耶・掬星台～六甲最高峰～大平山～塩尾寺(ゴール)～阪急宝塚駅。(注)ストレッチは、新神戸駅の先にある公園と塩尾寺で行った。今年は、摩耶山にも登った。宮城県勤労者山岳連盟の方とは、ゴール地点でお別れをした。

4) 良かったこと

- ① 天候(無風で、山行中に雨にも遭わず)に恵まれてL砂川会長の「少し余裕を持たせた

コースタイムを予定」と宣言されておられた通り、楽な歩きをすることができた。

② 東北の仲間と語らいながら歩き、全員完走できたこと。皆さんタフで元気でした。

③ 掬星台手前で頂いた温かい紅茶（尼崎ハイキングクラブ）と塩尾寺のゴールで頂いたぜんざいのもてなし。

5) 気になったこと

①「三国岩出合」手前の登り坂で県連の仲間が急病のため、救急の手当てを受けておられた。＊事前のトレーニングは、されていたのだろうか？当日朝の体調は、どうだったのだろうか？と気に掛かった。

②六甲全山縦走のパンフレットにも書かれている「この催しは、走ることが目的ではありません」に反して、若い人のみならず、競技をしているかのように走る人が年々、増大しているように思える。一人または、数人で走っているケースが多いが、登山とトレイルランは異なる。安全の問題もあるが、やはり我々は、仲間と一緒に気持ち良く地に足をつけてゆっくり歩きたいものである。

片道一日かかるような宮城県の遠い所から、関西まで来ていただいたということが、嬉しかった。山行中は、前の方から頻繁におしゃべりの声が聞こえてきました。私も東北の山へ、東北の地を訪れたくなりました。また、心の温かな人達と再会したいですね。

楽しい一日でした。

● 参 加 者 : L 砂川(延) SL 須増 大谷 尾越 垣内 宮城労山参加者(別表参照)

● 行 動 記 録 : J R 新神戸駅 7:50 発～市ヶ原(8:40 着)8:45 発～摩耶・掬星台(10:40 着)10:45 発～記念碑台(12:00 着)12:10 発～ガーデンテラス(12:40 着)12:45 発～六甲最高峰(13:30 着)13:45 発～一軒茶屋(13:50 着)14:10 発～太平山 15:30～塩尾寺(16:45 着)16:50 発～J R 宝塚駅(17:50 着)

◆◆六甲全山縦走初挑戦奮闘記

前川(克)

クリスマス登山のザコバ宴会後、酔った勢いで森本さんとうっかり 50 周年六甲全山縦走と一緒に挑戦しようと約束してしまった。事前の全縦トレでは、足が遅いのと鍛錬不足がてき面に出て、鴨越の急なアスファルト道で膝は痛くなり足がつって前に進まず、あえなく掬星台で敗退し、ザコバコース宴会で終わった。次の半縦トレでは、スローペースで東コースをкаろうじて宝塚に辿り着き、一応今年は 2 日で全縦達成したことにしたつもりだった。全縦のペースで歩くことが如何に大変か今更悟り、本番までは後悔と不安の日々を過ごし、全縦達成は諦め途中下山の感想文を書くつもりで本番当日を迎えた。

本番の日、始発に乗って須磨浦公園駅に到着すると既に参加者一杯で、受付には列が出来ていた。私とはレベルが違い過ぎる高御位山遊会きっての健脚ぞろいに囲まれてしまい、ギブアップ覚悟で無理せず気楽に行こうと心に決め 6 時 25 分いざスタート。曇りの予想だったが、朝から雲も無く良い天気恵まれ海から上がった朝日も綺麗で、歩き始めるとすぐに暑くなって上着を脱いだ。

横尾山、高取山までは何とか付いて行けたが、前回同様鴨越あたりからきつくなり、菊水山の急な直線階段からは皆さんのハイペースに付いて行けず、大分遅れながらも中間チェックの大竜寺に 12 時 43 分に到着。とりあえず制限時間をオーバーせず、後半への権

利を得たことだけ感激。今回は全縦トレより少し長い記念碑台まで行ってケーブルで下山が目標と勝手に決め込んでいたが、まだ筋肉痛は起こってないので何とかこの目標は達成できそうな気がしてきた。しかし、時間との戦いであり皆さんのペースについて行けるか不安で一杯だった。大竜寺でサービスのジュースを飲んでいると、先発で出られていた東北組をエスコートしている本多さんと遭遇。これが結果的にラッキーだった。本多さんたちは高御位山遊会組よりはスローペースで行くとのことで、お願いして落ちこぼれの私だけこちらに入れてもらうことになった。これでペースに対する不安は少し和らぎ、とりあえず私の目標点までは行けそうな気がしてきた。



東北の方々は女性1人と男性2人。石巻から来られた男性は、自宅は流されなかったが5日間水に浸かり、今は何とか改装して住めるようになったとのことで大変ご苦勞されたようだ。鉄道もバスを交えてだが昨年全線復帰したようで、徐々にではあるが元の生活へのインフラ整備が進んできているのを聞いてほっとした。もう一人の仙台の男性は、背中のミレーのザック、着ているウェアもボランティアで頂いたものと言われており、全国的に幅の広い山仲間の強い繋がりを感じた。高御位山遊会からもたくさんボランティアに行かれたと聞いていたが、皆さん「ボランティアに大変お世話になった」と、口々に言われていたのが印象的だ。このような繋がりとは、ずっと大事にしていきたいと実感した。東北の方々の話を聞きながら更にひたすら掬星台目指して進むと、山頂手前で温かい紅茶のサービスがあり、疲れ切った体を癒してくれた。

東北組は掬星台でゆっくり休憩されていたので、先発の高御位山遊会組に誘われ、先に出発。ここからアスファルト道が多くなるが、元来足が遅いのと疲労が増し、ペースにはついて行けず差がつくばかり。当初の目標の記念碑台で下山しようかと悩んでいたところ、後から来た東北組に再度入れてもらって、欲を出して一軒茶屋まで行くことにした。疲労は限界に来ていたが何とか東北組に付いて行け、18時のリミットの一軒茶屋に対し17時32分にチェック。膝は一層痛くなってきたが、今ならゴール間に合いますから頑張ると係の人に乘せられ、ひょっとしたら全縦達成できるかもという淡い期待が沸いてきて、休憩も殆どせず突き進むこととした。

ここからは、下界も見えない山道を、ひたすらだらだら下り坂を歩くことになる。途中から日没でヘッドライトを付け、また予報通り雨も降り出し雨具を羽織り、休憩も無くひたすら歩いた。膝の痛みも増し筋肉痛も出だし疲れも正に限界だが、雨も強くなりただこの場を早く立ち去りたいという思いだけが唯一のモチベーションとなり、不思議と足の痛みや疲れを感じる余裕もなく皆さんのハイペースに付いて行った。記念碑台から加わった東北組のエスコート役の摩耶山友会の明るい松本さんが、「ゴールではもち2個入りぜんざいが待っています。皆さん、ぜんざい目指してがんばりましょう」という掛け声にも激励され、雨で滑りやすくなった夜道を急いでひたすらぜんざいにありつけるのを期待し塩尾寺に向かって進んで、20時27分、何とかゴールに到達。我々より30分ほど前に到着していた高御位山遊会組はぜんざいを食べ終えて、私の無事下山を待っていてくれた。



置いていかれないように急いでぜんざいを食べ、何とか皆さんと合流してさっきまでの山道より遥かにきつい最後のアスファルトの下りを駅まで急いだ。

電車に一旦座ると乗り換えの西宮北口では歩けない状態。明日から出張なのにどうしようかと心配したが、翌日は駅の階段はさすがに歩き辛くエスカレータ、エレベータに頼ったが、それ以外は何とか歩くことができ、高御位山遊会のお陰で少しは鍛えられた成果が出てきているかと実感。本多さん、リーダー藤本さんや会の皆さん、東北の皆さん、松本さんに支えられ、私のような落ちこぼれが何とか夢にも思わなかった全縦走でき、感謝感激です。ありがとうございました。

- 参 加 者：本多 宮城労山参加者(別表参照)

L 藤本 SL 山本(正一) 赤木 岡本 小山 西川 前川(克) 森本 渡辺(和)

- 行 動 記 録：須磨浦公園 6:19 発～高倉団地(7:15 着)～拇尾山(7:30 着)～横尾山(7:45 着)～妙法寺(8:30 着)～鷹取山(9:15 着)9:25 発～神鉄鶴越駅(10:05 着)～菊水山(11:10 着)11:15 発～鍋蓋山(12:15 着)12:20 発～大竜寺(12:42 着)12:47 発～市ヶ原(13:00 着)13:05 発～摩耶山(14:40 着)14:50 発～記念碑台(16:05 着)～ガーデンテラス(16:33 着)16:40 発～一軒茶屋(17:20 着)17:30 発～分岐(17:40 着・アイゼン装着)～船坂峠(18:15 着)～大谷乗越(19:00 着)～塩尾寺(19:47 着)～ゴール(19:59 着)

宮城県連参加者名簿

東六甲縦走 コース	朋友会：赤間 弘記 石野 妙子 佐藤 順一 佐藤 正子 深田 勢子 森谷 金子 石巻山の会：岡 良一 小山 修 菅野 正雄 中里 竹子 どっぼ山の会：阿部 順子
六甲全山縦走	朋友会：植山 恒明 由利 孝子 石巻山の会：石森 康一郎 渡辺 正一



■淡路 先山(448m)&成ヶ島(成山・塩沼湿地)

- 山 行 日：3月20日(日)
- 参 加 者：La 瀧原 SLa 苦瓜 有本 貝塚(陽) 兼本 田中(由) 平石 開
三木(勉) 森下
Lb 荘所 SLb 村上 貝塚(文) 狩集 田中(美) 平井(み)
山本(清) 山下(順) 矢根
- 行 動 記 録：表参道登山口(9:07 着)9:15 発～九丁(9:43 着)9:48 発～山頂(千光寺・10:25 着)11:10 発～十丁(11:30 着)11:35 発～裏参道下山口(12:00 着)12:25 発～由良支所栈橋(12:50 着)13:03 発～成ヶ島栈橋(13:05 着)13:10 発～成山展望台(13:20 着)13:40 発～アカウミガメ上陸地(14:25 着)14:30 発～成ヶ島栈橋(14:50 着)14:51 発～由良支所栈橋(14:53 着)14:55 発～松帆の湯(16:15 着)

◆◆先山・成ケ島 山行に参加して

森下

春の彼岸の三連休の中日、気持ちもゆったりした今日、淡路島の先山・成ケ島への山行です。私の大好きな「みなと観光」でゆったりと総勢19名、私は宝殿駅7時20分に出発です。お天気にも恵まれ晴々とした気持ちで垂水から明石海峡大橋を渡ります。先山登山口へは案外早くに到着です。

先山里山推進プロジェクトの方々により、きれいに花壇も整備され気持ちよく出発します。目的地は先山千光寺標高448m、表参道登山口から歩きやすい道です。よく手入れされていてゆったりと登れます。約1時間も歩いたでしょうか、千光寺に到着です。先山千光寺(西国淡路花遍路)29番花の札所の立札が立っています。石段を登り千光寺にお参りをすませ、右手にまわると直径60～70cm程の大きな木の根っこの所に先山(448m)の三角点

がありました。登山の記念にタッチしひと安心、でも先山の頂上に立ったという感慨は、今日は何故か有りません。あまりしんどくなかったからかも知れません。境内から降りて見晴らしの良い休憩所でAM10:30に早目のお昼を少しだけ食べて、裏参道登山口へ向けて下山です。

この道はすごく荒れていて、枯れた木の枝やかなりの木々が道をふさいだりして、またいだり、くぐったり苦労しました。途中すれ違った3人組の方達が、「死ぬ気で登ってきました」と言われたのが的を射ていて妙に納得です。

次は瀬戸内海国立公園に指定されている成ケ島へ向かうため、マイクロバスに乗り、渡船場まで送って頂きました。乗船時間は約2分間とのことで、成ケ島で潮干狩りを終えた家族連れの方達と入れ替わりに乗船しました。あっという間に島に到着です。島内散策、約1時間の予定です。

遊歩道から少しずつ登り、北側の成山(標高50m)と南側の高崎を結ぶ約3kmの砂州により形成されている島です。中央部には塩沼地、塩沼湿地(満潮時には海水につかり、干潮時には干上がるような、砂泥地)が存在しています。今の時期ハマダイコンの花がたくさん咲いていました。砂浜では、きれいな小石や無数の貝殻が点在していて、気に入ったもの数個拾って帰りました。良いおみやげが出来ました。

山行に行って、砂浜の散策も出来た春の一日、本当に楽しい旅行気分を満喫する事が出来ました。旅の終わりは「松帆の湯」、汗もすっきりと流し、楽しい一日は終了です。ご一緒させて頂いた皆様、有難うございました。



■八ヶ岳(北横岳、縞枯山)

スノーシューor アイゼントレッキング



- 山 行 日 : 3月20日(日)～22日(火)
- 参 加 者 : L 砂川(延) SL 佐々木 大谷 谷口 藤田

- 行 動 記 録 : 山電高砂駅 6:55 発－JR加古川駅(7:08 着) 7:10 発－黒丸SA(9:00 着) 9:10 発－(21日) 恵那SA(10:40 着) 10:50 発－高遠城址(12:15 着) 14:50 発－蓼科ホテル親湯(16:00 着)

- (22日) 蓼科ホテル親湯 8:25 発ーピラタスロープウェイ駐車場(8:40 着)ーロープウェイ山麓駅(9:20 着)ーロープウェイ山頂駅(9:30 着)9:50 発ー北横岳ヒュッテ(10:30 着)10:40 発ー北横岳山頂(11:00 着)11:20 発ー北横岳ヒュッテ(11:30 着)12:10 発ー縞枯山山頂(13:35 着)ー縞枯山展望(13:50 着)ー五辻(14:30 着)ーロープウェイ山頂駅(15:10 着)15:20 発ーロープウェイ山麓駅(15:30 着)ーロープウェイ駐車場(15:45 着)ー蓼科ホテル親湯(16:00 着)
- (23日) 蓼科ホテル親湯 8:35 発ー女神茶屋(8:45 着)9:00 発ー八子ヶ峰・東峰(9:25 着)ー八子ヶ峰(9:40 着)ー女神茶屋(10:20 着)ー中津川(12:20 着)14:00 発ーJR加古川駅(18:05 着)

◆◆北八ヶ岳スノーシュートレッキング

藤田

【21日】

早春のアルプス随分と久しぶりでましてスノーシュートレッキングは初めてである。

好天気恵まれ道はすいていて昼には高遠城址に着いた。コヒガン桜の大木がどれもよく手入れされていて開花には未だ間があるが満開するとさぞかし美しいであろうと想いをよせる。食事は桜のつぼみの向うに白雪をいただく中央アルプスを望みながらとった。

風もなく、日差しが暖かくこのまま動きたくない思いであった。

此処は絵島の囲み屋敷でも有名でその近くの砂川さんの40年来の知人で花田昭子さんのご自宅を訪問した。そこで温かいもてなしを受けた。手作りの漬物とかフキノトウの味噌和えは絶品だった。彼女がとても88才と思えぬほど聡明な方で私たちは素晴らしい時間を過ごせました。

ここからは杖突街道を通り蓼科親湯ホテルへ向かった。

【22日】

昨日より快晴である。ホテルから10分程でロープウェイ乗り場へ着いた。標高1800mであるためか空気が冷たい。見通しが良く遠くの山々がくっきりと望める。山上での展望が待ち遠しくワクワクする。2240mの山上坪庭は風もなく陽光に輝いていた。雪が無くスノーシューは中止しアイゼンで北横岳に登行することになった。積雪は柵の頭まで有って固く凍っている。ザクザクと踏みしめながら登っていったが途中で足が動かなくなり何度も立ち止まった。皆に助けてもらい何とか北横岳山頂に辿り着けた。嬉しかった。

期待をしていた通りの雪山の景観がそこにあった。



風は冷たかったが気にならず疲れも感じなかった。目前に蓼科山が見え右手には眼下に頂上が窪んだ浅間山が見えた。今まで側面しか見ていなかったのだから見下ろすと全く違って見える。標高差が約900m近くあるのでなるほどと納得。私の横に詳しく説明してくれる人があって説明受けた通りに再現する。浅間の左奥には雨飾山、火打山、妙高山が見え、あいだに噴煙の上がる焼岳があり、浅間の右奥には尾瀬の至仏山、燧ヶ岳さらに右奥遠く日光連山が見え、手前下に妙義山、荒船山が低く見える。後方には峻険な南八ヶ岳。富士山は陰で見えないが南アルプスの鳳凰三山、北岳、甲斐駒、仙丈が、中央アルプス、御嶽山、乗鞍、北アルプスも立山、剱岳とも確認できた。その上妙高の右奥に青く見えるのは日本海ですとのこと。

期待をしていた通りの雪山の景観がそこにあった。

その方も日本海まで見えるのは記憶にないです。と話していた。カメラは寒くてシャッターが下りなかった。その為しっかりと記憶に留めたつもり。

15分程山頂にいて北横山荘まで下り昼食をとった。一旦坪庭まで下山し縞枯山荘を過ぎアイゼンを外した。縞枯山から展望所まで行って五辻へ下山した。縞枯山の登りはきつかったがここもなんとか皆さんの支えで何とか踏破できました。

【23日】

9時にホテルを出発し蓼科山の南側登山口のスズラン峠で車を止め八子ヶ峰へ登頂した。

この日は曇りで八ヶ岳連山はガスっていたが北側に蓼科が大きくそびえて見えるのが印象的です。八子ヶ峰ヒュッテアルピレオは閉鎖中であつたので車山が見えるところまで行って引き返した。

帰路中津川インターで街中へ入り鰻井を食べた。山だけでなく鰻店にまで連れて行ってもらい感激です。(うなぎの山品)覚えておきます。

今回皆さまのおかげで素晴らしい感動を得ることができました。ご迷惑をおかけしての結果ですがトレーニングに励みますのでもう少しの間よろしく願いいたします。



■藤原岳(1120m 三重県いなべ市) 福寿草が咲く早春の山に登る

- 山 行 日 : 3月21日(月・祝)
- 参 加 者 : L尾内 SL垣内 木村 小山 塩津 島谷 田中(重) 西口 藤本

- 行 動 記 録 : JR宝殿駅 6:25 発ー聖宝寺登山口 9:45 発ー6合目 10:50ー8合目(11:15 着)
11:20 発ー藤原岳山荘(12:05 着・昼食) 13:00 発ー藤原岳展望丘(13:15 着) 13:20
発ー藤原岳山荘 13:35ー8合目(14:10 着) 14:15 発ー4合目 14:50ー大貝戸道表
登山口(15:25 着)ー帰途へ

◆◆キュート(急登)な藤原岳

島谷

「福寿草が咲く早春の山に登る」が山行案内のサブタイトルでした。福寿草といえば、年賀状のイラストで見たことがある黄色い花、1月1日の誕生花です。旧暦の正月(2月)に咲き出すことから、新年を祝う花としておめでたい名前がつけられたようです。

小さいかわいい黄色い花は、日光が当たると開き日が陰ると閉じるらしい。この日も、咲いている場所によって(日の当たり具合によって)つぼみと開花と開ききった様子が見られました。8合目から山荘までの間では山道の岩の間からも顔をだしており、疲れの中でも笑顔になれました。

藤原岳は、登りは登りばかり、下りは下りしかない、わかりやすい「ザ・山」って感じでした。「この坂、キュートやな。」のNお姉さまの言葉に、「しんどいし、すべるし、ぜんぜんかわいくないし。」と思いきや、キュートではなく、急登なのですね。今までこの言葉を使ったことがなく、お兄様方にも驚かれ(呆れられ?)ましたが、今日は



山の単語が増えました。次はきっと「この坂、急登やわ」と使ってみます。



頂上からは、東になんと太平洋、伊勢湾が見えました。海の向こうには知多半島です。日本地図の三重県の東部と愛知県の西部が地図のままに見えました。おもしろいです。北には、雪を頂いた御嶽山と白山です。晴れた日のこの眺めが本当に幸せです。

山道は少し霜柱が残ってはいたものの、雪は解け切り好天続きのためそれほど悪路ではなかったです。アイゼンもスパッツもつけずにすみました。約5時間、急登な坂の藤原岳を歩き切り、心地よい疲れで帰路につきました。



■ゴロゴロ岳

- 山 行 日：3月27日(日)
- 参 加 者：La 澤田(律) SLa 藤原 乙坂 澤田(卓) 田中(重) 土屋 舂賀 渡邊(俊)
Lb 藤本 SLb 西口 小山 清水 田羅間(勤) 土井 橋本(健)
山本(清)

- 行 動 記 録：阪急夙川駅 9:10 発ー鷲林寺バス停(9:30 着)9:35 発ー鷲林寺観音堂(9:55 着)
10:10 発ー奥池(11:10 着)11:20 発ー砂山高原近く(昼食・11:35 着)12:00 発ー
ゴロゴロ岳山頂(12:25 着)12:35 発ー柏堂町バス停(13:35 着)ー北山緑化植物園
(13:40 着)14:40 発ー阪急夙川駅(15:10 着)

◆◆ゴロゴロ岳に登って

土井

3月の山行案内を見ていた時、その名前に目がとまった。「ゴロゴロ岳」なんだか楽しそうというか本当に山の名前なの？興味が湧いてきて登ってみようと思った。登る前にいろいろ想像してみる。道が石でゴロゴロしているのだろうか？山全体が岩でゴロゴロなのかな？



当日登りはじめて感じたのは、そんなに岩がゴロゴロでもないし、登る道も急ではなかったので結構楽にかも？ということだった。1時間半程で奥池に到着した。池を見ている方から手招きされて池の中を見てみると「でかっ！」でかすぎる鯉が何匹も泳いでいた。

そこからは、途中の分岐点まで戻ってから頂上まで登った。なんだかあつという間に頂上に着いた気がした。頂上の岩に「ゴロゴロ岳 標高565.6m」と書いてあった。標高565.6メートル？5656・・・ゴロゴロ。。。「ええ？これが名前の由来ですかあ？」頂上でちょっとびっくりした瞬間だった。

いや、でも下りの道は大きな岩がゴロゴロしていた。岩と岩の間で足の踏み場が狭かったり、こんな岩のところで滑ったりしたら一溜りもないと思って足元に神経を集中した。

体力よりも神経を使った下りだった。途中道が分岐しているところがあり他にもコースがあるみたいだった。また違うコースで登ってみたいと思った。



『トサミズキ』



■天王山(京都) 女性委員会

- 山 行 日：3月27日(日)
- 参 加 者：L三木(悦) SL 尾越 上川 尾内 大谷 香川 垣内 田中(美)
田中(由) 苦瓜 橋本(万) 村上 矢根

- 行 動 記 録：J R 山崎駅 9:40 発～大山崎歴史資料館(9:45 着)10:10 発～宝積寺(10:20 着)
10:30 発～青木葉谷展望広場(10:45 着)10:50 発～酒解神社(11:05 着)～天王山
(11:10 着)11:45 発～小倉神社分岐(12:10 着)～十方山(12:20 着)12:30 発～水
無瀬の滝(13:05 着)13:15 発～サントリー山崎蒸留所(13:35 着)14:30 発～J R 山崎
駅(14:40 着)

◆◆いざ! 天王山へ

尾内

今日は、J R 青春18きっぷを利用して大山崎町へ入りました。まずは大山崎歴史資料館でボランティアガイドによる天王山の戦い、利休の茶室「待庵」のモデルや兵庫から来たと言うと「えごま油製造」にかかわって姫路城主に宛てた書状の説明を受け、また、本日の登山コースの見どころも教えていただき登山意欲をそそられました。

資料館をあとに少し戻って阪急山崎駅近くの登山口よりまず宝積寺へ、山門の仁王像や三重の塔を見たあと、登山道へと歩みをすすめていきました。羽柴秀吉と明智光秀が覇権をかけた山崎の戦い「天下分け目の合戦」の舞台となった天王山への出発です。

登山道は、よく整備されており、最初に青木葉谷展望広場で小休止。ここでは、桂川、宇治川、木津川から淀川への合流点がみえます。川と山の間が200mほどしかなく、今は電車やトンネルができ安易に東西を行き来することができますが、その昔は、天王山は、位置的に交通や軍事の要衝であったことが伺えます。

広場や登山道には、秀吉の道と名付けられ合戦の模様を表した陶板絵図が設置されており、説明文もあって、山崎合戦の臨場感を味わいながらの登山となりました。

幕末期の史跡十七烈士の墓をとおり、酒解(さかとけ)神社へ。天王山の名は、中世にこの酒解神社に祭られた牛頭(ごず)天王から名付けられたそうです。

1時間ほどで山崎城址の山頂270.4mに到着です。実際の戦いは東の山麓で行われたそうですが、勝利をおさめた秀吉が天下統一をめざして築城した山崎城址は、ところどころに点在する石垣に歴史の重みを感じずにはいられませんでした。ここで少し早目の昼食をすませました。

これからは山頂までの急登とうってかわってなだらかな尾根歩きが続き、304.3mの最高点十方山へ進んで行きました。このコースは竹林が多く、私有地の看板もあちこちに見受けられました。あとで調べると登山道は、私有地を借り受けているところもあるようです。

下山後は、これから行くウイスキー工場の美味しい水の源、水無瀬の滝へ、そして最後の目的地、山崎サントリー蒸留所を見学し、ウイスキーを試飲、皆の顔もほんのり赤く、満足気でした。

今日の山行は桜の花も咲き始めた穏やかな春の1日を女性委員会の目標でもある現地の



豊かな歴史文化に触れながら、また、女性同士会話も弾み楽しい山歩きができたことを嬉しく思います。リーダーはじめ一緒させていただいた皆様本当にありがとうございました。



■金勝アルプス(滋賀) 奇岩と磨崖仏を巡る湖南のミニアルプス

- 山 行 日：4月9日(土)
- 参 加 者：La 三木(悦) SLa 和田 田中(由) 土井 苦瓜 橋本(健) 橋本(万)
平石 村上 山本(清)
Lb 尾越 SLb 藤本 大野 乙坂 小山 坂田(敬) 塩津 清水 田中(重)
田中(美)
- 行 動 記 録：上桐生駐車場(9:45着)10:00発～落ヶ滝(10:25着)10:30発～北峰線出合(11:05着)11:15発～天狗岩(12:00着・昼食)12:50発～白石峰(13:15着)～竜王山(13:40着)13:45発～狛坂磨崖仏(14:30着)14:35発～桐生辻分岐(14:55着)～逆さ観音(15:30着)15:40発～オランダ堰堤(15:45着)～上桐生駐車場(15:50着)

◆◆金勝山(こんぜやま)ハイキングに寄せて

橋本(万)

私の故郷は滋賀県。新名神高速道路が出来てからの帰省の度に“あの奇岩は？”と不思議に見て通っていました。この山を挟んで反対側には国道一号線やJR草津線が通っており、通勤通学で目にするのは天皇陛下お手植えの木がある「県民の森」としてのなだらかな丘陵地です。ので、今回のハイキングは故郷の再発見でした。

この山には金勝寺(こんしょうじ)がありましたが、なぜ金勝山(こんぜやま)と、読むのかな？腑に落ちないまま心地よく2時間半のバスにゆられて高砂まで帰り着きました。

さて、今回の金勝山ハイキングは湖南アルプス内の上桐生～竜王山～上桐生までの約11km高低差450mを6時間で歩きました。お天気も暑からず寒からず、歩き始めは足元を流れるせせらぎの水音に誘われ、やがて鶯の鳴き声に疲れを癒やされ、体が熱ると風が流れてきて、と終始ルンルンな歩調で行けました。最初に辿り着いた落ヶ滝の爽快な景観。天狗岩の岩場をよじ登った景色の圧巻！琵琶湖から比叡山、近江富士、鈴鹿の山並みと360度のパノラマでした。竜王山に向かう道中振り返ると、山全体が壮大な枯山水、まるで山の上の足立美術館の借景の様でした。降りてくると大きな岩の中に優しい観音様。



茶沸観音、狛坂磨崖仏、逆さ観音、思わず硬貨をお供えする人も。最後はオランダ堰堤の水場を渡り、バスが待つ上桐生キャンプ場駐車地まで辿り着きました。変化に富んで飽きさせない楽しいコースでありました。

こんな絶景ハイキングを道迷いもなく的確に先導してくださったリーダーに敬服します。

金勝山山行の皆さん、ありがとうございました。



■新龍アルプスと龍野公園の夜桜

- 山 行 日：4月10日(日)
- 参 加 者：La 上田 SLa 澤田(律) 内海 狩集 谷口 開 矢根
Lb 森本 SLb 野村 大谷 貝塚(文) 垣内 砂川(美) 舩賀
- 行 動 記 録：播磨新宮駅(9:38 着)9:50 発～市野保(10:10 着)10:20 発～ストレッチ(10:25 着)10:30 発～搦手谷登山口(10:50 着)10:57 発～十字路 11:24～祇園岳(11:33 着)11:45 発～十字路 11:52～亀池(12:20 着・昼食)12:40 発～城山(13:07 着)13:20 発～三基墓(13:28 着)13:30 発～382.7ピーク(14:25 着)14:35 発～的場山(15:25 着)15:40 発～両見坂 15:57～龍野公園(16:42 着)～本竜野駅 18:54 発～JR姫路駅(19:18 着)

◆◆古跡豊かな新龍アルプスに行く

貝塚(文)

昔愁のある姫新線に姫路駅より乗車し、播磨新宮駅に降り立つと、懐かしさが込み上げて来る。此处より、のどかな田舎道を歩いて市野保の集落を通り、古墳群の案内板を見ながら唐猫谷の林道を登って行く。此のコースは、城の搦め手になっており、更に進むと右側に「城山城・門石」がある。その先に搦手谷登山口が有り、道標に従って急な山道を進んで行くと十字路に到達し、左に折れて「祇園嶽」に向かう。山頂は展望が利かないが「遺布弥神社」の碑があり、右方向に行き岩壁に立つと、下界に広がる姫新線沿線の素晴らしい景色を眺める事が出来た。

十字路へ戻り的場山方向への縦走路を進むと、「南無阿弥陀仏」と刻んである供養碑の前を通り、何処が体で足なのか分からない「蛙岩」があって、亀の池方面への分岐に着く。

そして右折れすると「亀岩」が有り、縦走路から外れるが、亀の池に行ける。此の「亀の池」は意外に大きく、山中の静かな様子は神秘的である。此の場所で昼食を取りながら秋の紅葉シーズンに來れば、山と紅葉、池、そして水面に映える山並みと紅葉のコントラストが抜群に良い場所だと思った。此れより分岐点に戻り城山を目差す。亀岩から杉林の中を登り、良く整備された近畿自然歩道を進むと「展望休憩所」に着く。東方面には特徴の有る先の尖がった山(明神山らしい)が見え、展望も良



い広い尾根道では有るが、変化は余り無く登って行くと、「城山」の頂上だ。雑木林の中なので展望は余り良く無いが、標柱には「亀山(城山)」と表示されていた。頂上に有る三角点に付いてリーダーより、目的、等級、大きさ、刻印、南北の見方、形等の説明が有り、山頂には四等三角点が有る。(「きのやま」は、国土地理院の地形図では「亀山」になっているが、地元の文献や標識はすべて「城山」になっているようで、亀山や亀の池の名称由来はこの亀岩から来ている様だ。)

城山を後にして進むと、其処には薄暗い杉木立の中に墓の様な石碑が数基立つ「三基墓」が有り、其の杉林を抜けると展望が開けて、これから歩く山並みが眼前に広がっていた。

此の山道はつつじ尾根コースと言われ、ミツバツツジが満開でアルプスと呼ぶに相応し

い絶景の縦走路に成り、なお稜線を行くが、的場山迄はアップダウンが結構きつく、其の上風化した岩屑の浮いた急坂が有るので、慎重を期して進んで行く。「382.7mのピーク」が近づくと漸く緩やかに成り、歩き易くなって来た。稜線に立っている送電鉄塔を通過し、最後の鞍部へ下ってガレ場の急斜面の登山道を登って行くと、更に丸太階段が待ち受けており、やっとの思いで「的場山」の頂上に着く事が出来た。山頂は保護石に囲まれた頂上で、標柱には「的場山」と「近畿自然歩道」の案内板、そして「NTTの無線中継所」が立ち、山頂からは瀬戸内海が見え、北方面には新竜アルプスの山並みを見る事が出来た。

的場山からかなりの急坂道を下って行くと、「展望休憩所」が有り、山々が連なる眺望を見て、途中から真っ直ぐに下がる急坂を、慎重に一步一步足の置き場を確かめながら下がり、檜わだの森林と言われる石灯籠の有る「両見坂」の峠に下り立つ。此处でリーダーより時間的に無理が有るので、エスケープルートを選んで下山するとの説明が有り、龍野公園に向かって下山開始、公園では桜の花も散り始めて、地面に落下した花びらの上を踏み締めながら、聚遠亭内に入り、浮堂の茶室の前に丁度桜が満開で咲いて居たので、花見と記念撮影をして、龍野公園の散策もそこそこに「すくね茶屋」で、一品料理とビールで乾杯をし、全員が無事下山出来た喜びと、懇親を深める事が出来た満悦の笑顔を見て帰路に着く。今回歩いたコースは、「古墳」、「奇岩」、「石碑」、「石灯籠」、「山城・神社跡」、の史跡や「ローカル列車」、「溪流」、「縦走」、「山上の池」「高山の花」、「花見」等バラエティーに富んだ充実した山行であった。

◆◆新竜アルプスと龍野公園の夜桜

開

新竜アルプスは、高御位山遊会に入った年に登った山で、下りがきつかったのを覚えていたのですが、龍野公園の夜桜につられて参加しました。

播磨新宮駅からかなり歩いた広場でストレッチをして出発。搦手谷登山口で休憩して祇園岳に登りました。小さい沢の横を歩いていたら、後方から「山ヒルがいる」との声。山ヒルに注意しながら祇園岳に着いたら森本さんが靴下の上からかまれていたので、皆が靴を脱いで点検しました。被害は森本さんだけでした。



蛙岩や亀岩を見て亀の池で、お弁当。

水が緑の池で秋には紅葉が水面に映って綺麗だろうと思いました。

亀山を過ぎて的場山に向かう途中、足がおかしいなと思っていたら、太ももがつって、歩けなくなりました。皆さんから塩や梅干しやお薬、ポカリを頂いて回復したと思っていたら、又つってしまいました。砂川さんにストックをお借りして、貝塚さんにリュックを持ってもらって何とか鶏籠山の登り口までたどり着けました。鶏籠山はカットして龍野公園のお花見に行きました。

桜はほとんど散っていて、公園にも屋台は出ていなくて、仕方なく茶店で乾杯しました。

皆さんには、本当にご迷惑をかけて申し訳ありませんでした。これに懲りずこれからもよろしくお願いします。



■「初めての山歩き教室」実技 高御位山

- 山 行 日：4月10日(日)
- 参 加 者：(教室生) 河合 河崎 木下 木畑 黒本 高島 廣岡 松浦 安田
(サポート) L 砂川(延) SL 須増 田中(重) 西口 藤本
山本(正一) 渡邊(俊)
- 行 動 記 録：みどりの相談所 10:10 発～縦走路出合い 10:40 発～高御位山
(11:25 着) 11:35 発～小高御位山 12:10 発～中塚山鉄塔 (12:45
着・昼食) 13:05 発～北山 (13:20 着)～長尾 (13:30 着)～市ノ
池公園第二駐車場 (13:45 着)

◆◆4月10日「初めての山歩き教室」トレーニング 1 回目 “山ガール”デビューする！ 黒本

薄雲りの中、山での歩き方トレーニング 1 回目の高御位山に出発。初めて歩くルートなので登山道が、緩やかなのか急なのか起伏はどれ位あるのか何もわからず、皆さんに迷惑かけずに登れるか不安を抱きながら歩き始めました。



市ノ池公園を抜けていきなりの急な斜面に「えっ!!」と不安になり、登りきった所から緩やかな尾根道に「ホッ」とし、しばらく景色を楽しみながら歩き、その後は、野鳥の声に応援されながら、急な斜面を登り、高御位山山頂に到着。少し休憩し、次の北山の鉄塔までの道のりでは、「ここを初心者には歩かせるの?!」というような道が続き、途中で振り返って見上げた崖のような道に「あんな所を歩いて来たんや?!」と感心し、肩くらいまである山ツツジの並木

道に迎えられ鉄塔に到着。昼休憩、おにぎりエネルギーを補給して、後はただ下るだけでした。

座学で聞いた、「山歩きは、登りよりも下りに気をつけて歩く」を心がけて無事に下山。

ゆっくり歩けた為か、筋肉痛もさほどなく、日頃のストレスから解放され気分転換できました。志方ルート以外の高御位山登山をしようと思ったのが、この教室に参加するきっかけだったので、これからのトレーニングが楽しみです。